

※2023年 5 月 2 日～2025年 5 月 1 日の期間
教育研究業績書

氏名	ふるやま あゆむ 古山 歩	職名	特任准教授（博士（学術））		
専門分野	鯨類生態学				
所属学会	日本水産学会，日本哺乳類学会，漂着物学会，セトロロジー研究会，勇魚会				
担当科目	データサイエンスⅠ，データサイエンスⅡ，海洋生物学，環境生物学，専門演習 a，専門演習 b，専門演習 c，専門演習 d				
Ⅰ 教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		パソコン実習系の授業では，適宜教室を巡回し，学生それぞれの作業進捗にあわせた個別の指導を心がけている．生物に関する授業では，写真やイラストを多用し，学習内容をイメージしやすいように工夫しているほか，資料を配布し，授業後に復習しやすいようにしている．			
2. 作成した教科書、教材、参考書		なし			
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2024 年 6 月にワークショップ「イルカを手軽に計測・記録するには？」を企画し，3Dモデルや写真などの映像データ利用した鯨類の計測・記録方法に関する発表や実演を行なった。 2024 年 10 月に「スナメリ調査・解剖講習会」を開催し，三重県近隣の四大学（四日市大学、三重大学、近畿大学、人間環境大学）の学生を対象に，新鮮なスナメリ死亡個体を用いて，解剖の手順を詳細に解説した。			
4. その他教育活動上特記すべき事項		なし			
Ⅱ 研究活動					
論文					
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著のみ記入）	該当頁数
Determining factors in the survival rate of bycatch green turtles <i>Chelonia mydas</i> at a setnet fishery off Nishiki, Taiki-cho, Mie, Japan	共著	2024 年 11 月	Aquatic Animals, AA2024-30	©Ayumu Furuyama, Yutaro Kawano, Thakahito Masubuchi, Miyuki Knaiwa, Atsuya Yamamoto, Kei Taniguchi, Minoru Knaiwa	
学会発表					
発表（報告）名等	単独 共同	発表の年月	学会名等		
スナメリ <i>Neophocaena asiaeorientalis</i> の胃内容物分析における深層学習を利用した魚類耳石の種判別の試み	共同	2024 年 9 月	日本哺乳類学会 2024 年度大会（兵庫県）		
スジイルカ <i>Stenella coeruleoalba</i> の炭素・窒素安定同位体比分析における組織代替利用の可能性	共同	2024 年 9 月	日本哺乳類学会 2024 年度大会（兵庫県）		

非侵襲的手法（3D スキャンと X 線 CT スキャン）と、侵襲的手法（解剖）を基にしたスジイルカ <i>Stenella coeruleoalba</i> 漂着個体に見られた左上顎吻部の欠損の記載と検討	共同	2024 年 9 月	日本哺乳類学会 2024 年度大会（兵庫県）
炭素・窒素安定同位体比からみた熊野灘南部海域のスジイルカの摂餌生態	共同	2024 年 12 月	令和 6 年度日本水産学会中部支部大会（三重県）
ドローンを用いたコロニーにおけるカワウの営巣適地条件と営巣可能数の推定	共同	2024 年 12 月	令和 6 年度日本水産学会中部支部大会（三重県）
スナメリの前庭嚢にみられる体長に伴う変化	共同	2025 年 3 月	第 72 回日本生態学会大会（北海道）
Ⅲ 社会における主な活動			
講演等			
2025 年 2 月	三重大学博学連携企画公開シンポジウム「鯨類のストランディングー大学・博物館・水族館との連携による調査とその意義」における講演（三重県）		